時事新報の石版附錄 板垣伯の肖像

本紙に讀者投票の結果に因り時事新報の石版附錄と爲す可き板垣伯の肖像は本月中旬寫し取りたる伯の寫眞を本とし之を美麗なる石版畫となし來る六月八日の時事新報に添へて讀者に配布す

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日も休刊せず其代價郵送料廣告料へ左ノ如シ

一枚二錢○一百月前金五十錢○三百月前金一圓五十錢○六百月前金三圓○一百年前金六圓

○時事新報社より直接に郵便にて郵送スルモノニ限り右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ郵送料を申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行　平　付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新開紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に郵便の實費を申受く可し

時事新報

景氣振作

露國皇太子の御來遊も大津の凶變によりて本國なる兩陛下の御心配を慰するゝと能はず去る十九日を以てイヨ〳〵御歸國の途に就かせられたるは又是非もあき次第なり我國人が上下ともに之を傷み之を惜みて言葉に盡し難き其至情は幸に皇太子の洞見せらるゝ所となりたれば此上は露西亞兩陛下に於て一日も早く御憂慮あらせられ兩國の交誼の長なへに親密ならんことを祈るの外なければ我輩は一先づ筆を止めてサテ首を回らして前後を顧るに元來國賓來遊の一事は其關係する所極めて淺からざるものありしのみならず此に於て第一に我が經濟上の有樣に照せば既往凡そ十年以來商勢殊に沈滯して殆んど一日も歎呼の實を呈したるのみならず富者も亦金を擁しながら節儉を主として恰も貧乏人の風を學び貧富共に寂然として實に居る者の如くなるは不景氣に萎縮して空〳〵不景氣を致すものと云ふ可し誠に憂ふべき事柄にして心ある者は何とか救治の策を講んとて頻に思慮を廻らし我輩も亦實に其憂を共にして事の意の如くならざるを歎息するもの久しかりしに折しも國賓來遊の吉報に接したれば奉迎の歡に加へて或は此機を幸に萎縮したる人氣を引立るゝもあらんかと竊に經濟上に期する所ありたりしは蓋し高人同一の意裏なりき然るに露太子の一行あればとて俄かに大に我が商界を潤ふすべきにあらず積票の不景氣に對しては九牛の一毛にも足らざるゝを明白なれども歡迎の爲めにとて打沈みたる人氣の急に引立つゝみとなれば恰も旱天の驟雨に似たるものゝありて孤到一線ふゝに奮興の機を起し活潑の餘勢を以て續いて振作するゝなきを期す可らず即ち太子の來遊は間接に經濟社會に生氣を與ふるの一助となる可きものにして商況沈滯の時節柄その此の如くあらんを願るに切なりしに兇徒の一刃空しく百事を水泡に歸せしめたるゝを遺憾なれ此回の不幸は當に外交上のみに非ざるなり

○

然りと雖も事既に去る今更これを悔むも甲斐なし以前に立戻りて我が商界の不景氣を如何にして今日の所はやはり目下に醸せざる可らざるの急務にして今日の所は宜しく活眼を開いて大膽なる決斷を下だし經濟の復活再生を圖るの時節なる可し而して其方法に就ては世上の所說自から一定せずと雖も今試に二三を枚擧して參考に供せんに曰く公債證書を特別に保護するの小策を止め他の確實なる諸會社の株券をも同樣に抵當の効用を有せしめて金融の便利を廣くすべし曰く興業銀行を設立して同じく融通の便を開くべし曰く速に生絲、鹽、油、綿等の相場所を開設するゝを得せしめ實買を滑かにして營業者の危險を免れしめ併せて其價格の標準を定むべし曰く國內大小の鐵道を政府の一手に買取り鐵道政略を一新すると共に其株式の債を平準あらしむべし曰く官有鐵道の事行はれずんば民間に一大會社を起して之に當らしむべし曰く外資を輸入して鐵道郵船その他諸會社の株金を塡充せしめ低利の資本を以て事業の繁昌を計るべし曰く神社佛閣保存の爲め又は北海道移住保護等の爲めに富籤の興行を許すべし抔とは唱ら行はるゝ所なれども素より中には利もあり害もありて漫に一概に臆定す可らず我輩に於ては豫ての持說もあり又今後の紙上もあるゝとおれば爰には暫く斷言せずと雖も兎も角も世間一般不景氣〳〵と唱へて唯沈滯にの一方に陷ゐり追々俗に云ふ火の消えたる姿とおらんは如何にも安からざる次第なれば此際斷然の處置を取りて商界に生氣を與へんゝと切望に堪へざる所なり

時事新報

○比叡金剛、土京を去て後ち

君士但丁堡陸軍大學校に於て

時事新報特派員　野田正太郎

立つ鳥は跡を濁さずと云ふ我比叡金剛出立後の評判は如何兩艦總員の聞かんと欲する所なる可し其後其諸新聞は折り〳〵兩艦の事を記して遺きぬ名殘を慕に現はし或る新聞は又も日本皇帝歐洲に來ると傳へ比叡金剛は其先導艦たらん爲めコロンボより二十五日にて急き歸朝するゝよしなど配せり逢ふ人毎に兩艦は今頃何所だろうト問ふて懷しさに堪へざるものゝ如く當時の話など語り出て「ドウモ日本の人達はいゝ」と昨今になりて感心するもの多し兩艦當地より希臘のアセンに赴きたる節は國王并妃皇太子殿下臨御あり兩艦長へ勳三等、兩副長へ勳四等、坂本大尉へ勳五等を贈られ其他同國外務大臣土耳其公使等の招待もあり此所にも一花咲かせて夫よりアレキサンドリヤ、ポートセッド、蘇士を經て亞丁に二週間近く滯留し練習候補生の演習を催はしたる迄は確かに知れ得たれど其後の航路は如何なりしか思ふに此書到着の前後兩艦無事に歸朝して遠征の憂を一杯の正宗に切り拂ふ可し

海軍部

兩艦出發後の評判　立つ鳥は跡を濁さずと云ふ我比叡金剛出立後の評判は如何兩艦總員の聞かんと欲する所なる可し其後其諸新聞は折り〳〵兩艦の事を記して遺きぬ名殘を慕に現はし或る新聞は又も日本皇帝歐洲に來ると傳へ比叡金剛は其先導艦たらん爲めコロンボより二十五日にて急き歸朝するゝよしなど配せり逢ふ人毎に兩艦は今頃何所だろうト問ふて懷しさに堪へざるものゝ如く當時の話など語り出て「ドウモ日本の人達はいゝ」と昨今になりて感心するもの多し兩艦當地より希臘のアセンに赴きたる節は國王并妃皇太子殿下臨御あり兩艦長へ勳三等、兩副長へ勳四等、坂本大尉へ勳五等を贈られ其他同國外務大臣土耳其公使等の招待もあり此所にも一花咲かせて夫よりアレキサンドリヤ、ポートセッド、蘇士を經て亞丁に二週間近く滯留し練習候補生の演習を催はしたる迄は確かに知れ得たれど其後の航路は如何なりしか思ふに此書到着の前後兩艦無事に歸朝して遠征の憂を一杯の正宗に切り拂ふ可し

四頭の駿馬、九千里の波濤　兩艦が守護して去りし我天皇陛下へ土耳其皇帝よりの贈物數多き其外に前にも報せし如くいよ〳〵四頭の駿馬を贈らるゝことに相成り金剛乘組清水少主計比叡乘組松本二等兵曹常地に居殘りしが三月二十六日右兩氏の外に土耳其陸軍大尉ヤムット　ベー并に別當一名四頭の駿馬を護して佛國馬耳塞へ向け出立し同地より佛國メッセザリ會社の郵船にて日本へ直航するよし是も此書に前後して到着す可し

土耳其語

土耳其皇帝は余を當地に留めてより陸軍大學校中將セッキパシャは皇帝の命を受け日々來りて余の安否を訪ひ又毎金曜日にはユルヴズ宮へ出てゝ皇帝に謁見す可しとの事なり陸軍大尉レウエデ　イフエンディ海軍少尉サブリ　イフエンディの兩氏常に余の室に在り余は六箇月にて土耳其語を習ひ果せんとの心算にて日々兩氏に學び又望に依て兩氏に日本語を教授し居れり外出の折は兩氏の內一人必ず余を護りて片時も離れず出入の度毎に之を配して宮中に報ずるゝ少し宮中に思ふ程の次第あり一箇月の後尙二人の日本語生徒を與ふる旨セッキパシャは此程余に告げたり土耳其語研究に付きいろ〳〵話されども是は追々報ず可し

○現在鐵道の効用及び缺點　工學士佐分利一嗣氏の調査したる日本鐵道に就て現在鐵道の効用及缺點は世人の注意を惹くの必要あるを以て玆に其概略を輯記せんに我國現在の鐵道を見るに其敷設する處概して平坦の地に屬し陸上の來往便利なるが上に海運も亦自在にして交通最も頻繁を極め之を他の地方に比して土地の開明特に著しきが爲め自然に鐵道の發達を促し從來便利の交通をして益す便利に赴かしめ愈々開明の機關を盛ふの効用あれども之に依て大に事業を興起し物產を振作し又土地の富饒を來したるの實例は極めて稀にして所謂る殖產興業の目的に關しては寧ろ注意の薄きものありと云ふの如き故に其收益の多分は旅客より得る者にして貨物の運搬に依りて得たるものは割合甚だ僅少あり試に近年の統計に據り現在鐵道の重なるものゝ旅客貨物收入の割合を示さんに

明治二十一年度官設鐵道旅客貨物收入割合

	旅客收入	貨物收入
東京橫濱間	八、五五	一、四五
橫濱神戸間	七、〇〇	一、三〇
神戸大津間	七、六〇	二、四〇
敦賀大垣間	五、五四	四、六〇
大垣武豐間	八、二五	四、七五
太府濱松間	八、〇六	一、九四
高崎橫川間	七、三〇〇	二、七〇〇
輕井澤直江津間	五、九〇〇	二、三〇〇
平均	七、七〇	二、三〇

明治二十二年下半期日本鐵道會社門前收入割合

	旅客收入	貨物收入
第一區東京前橋間	五、九四	四、〇六
第二區大宮白川間	四、五三	五、四七
第三區白川鹽釜間	五、六〇〇	三、八〇〇
平均	五、六〇〇	四、四〇〇

明治二十三年上半期同前

	旅客收入	貨物收入
第一區東京前橋間	七、一〇	二、九〇
第二區大宮白川間	六、二七	三、七三
第三區白川鹽釜間	七、五〇〇	二、五〇〇
平均	七、一〇〇	二、九七〇
合計	七、〇三	二、九七〇

旅客收入　貨物收入

今又此點に就て歐米各國の近例を見るに其割合は左の如し

一千八百八十三年歐米鐵道旅客貨物收入割合

	旅客收入	貨物收入
獨逸國	二、九〇〇	七、一〇〇
墺太利國	二、三〇〇	七、六〇〇
伊太利國	四、四〇〇	五、六〇〇
白耳義國	三、五〇〇	六、五〇〇
佛蘭西國	三、二〇〇	六、八〇〇
合衆國	二、〇〇〇	八、〇〇〇
露西亞國	二、〇〇〇	八、〇〇〇
瑞西國	二、〇〇〇	八、〇〇〇
英國	二、〇〇〇	八、〇〇〇
本邦	七、〇〇	二、〇〇

之に依て觀れば對し旅客よりしきに至りては物は遙に六七倍少きは五分四五に旅客は越へて貨に甚しきものは殆ては益する處○縣會議員の補川鳴宇一郎氏は此程其補欠を氏が當選就任し○宮城縣下白石地方にては蠶種城縣下白石町の行屆きたる爲めに二齡より三齡に成とも十分の好結果霧等の害もなく例の蚕生桑葉に比は近來大に進歩國となるもの多くして一國につき之の如きは四眠後の內外の相場あり又れば今後十日以內の報

○製絲業　養蠶家の增加年養蠶家の增加へ上州の如き信州の處に製絲所を設有樣なるは誠に多くを投ずるときは往を殺するゝ如き增長に關し廣立常可しと或人は云へ

○芝罘港に於ける日本全國に於て五萬六千餘斯く迄に多くの綿るべし兩に角製絲

○水戸鐵道會社時刻（小山線）

○常毛鐵道會社時刻

○米國郵便汽船會社時刻